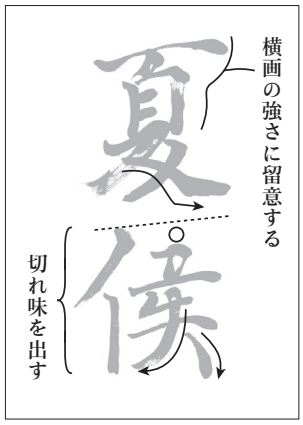
高・大・一般　漢字（楷書B）

※楷書A、Bは段級をとわず両方出品も可。

長野　竹軒

樂毅論（光明皇后）②

夏候



〈解説〉

先月号で「樂毅論」の古典は二つあり、今回は光明皇后の方を取り上げるとお伝えしました。この二つの古典の存在は、日本と中国の書道史という観点からも大変興味深いです。それは王羲之が四世紀初めに、光明皇后が七世紀初めにこの「樂毅論」を書いたということは、王羲之が書いてから約三百年もの時間が経過しているのにも拘らず、臨書という行為を通して日本と中国が交流していたという明確な歴史的証拠でもあるのです。平安時代になり、空海が王羲之の字を学び「風信帖」などが登場しますが、日本と中国の書道交流史を考察する上でも、この「樂毅論」は大変重要な古典の一つなのです。

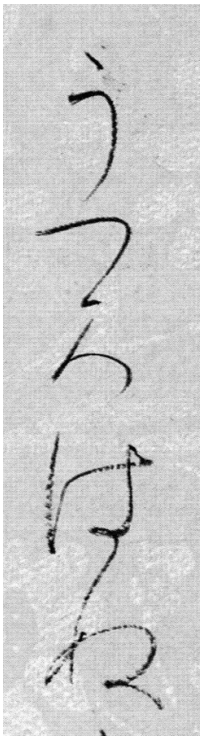
〈学習上の留意点〉

私がこの古典を臨書する場合は、半紙用の羊毛と濃墨を使用します。特に今回の課題は濃墨で表現した線が見られますが、この線は一般的な兼毫の筆では難しい表現です。また、今月の課題のように横画が沢山ある場合は、横画の線の強さや緊張感、そして線の粘り強さを意識して書きましょう。

「夏」…横画の強さや緊張感に留意する。

「候」…粘り強い線質で表現できるように留意して書く。

高・大・一般　仮名入門



〈釈文〉うつろはぬ　（粘葉本和漢朗詠集）

清水　文博

本課題は先月に引き続き、「粘葉本和漢朗詠集」の変体仮名を使用していない部分です。普段使用している平仮名と字形の違いを確かめて書きましょう。「ぬ」の字母は「奴」です。「女」を字母とする「め」に結びを追加したものではなく、左右に分かれた字形であることを意識して書きましょう。

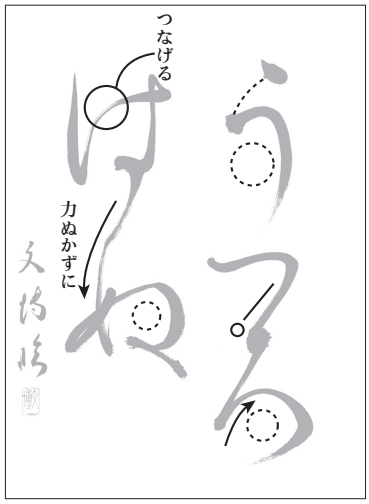
用紙はにじみの少ない白色半紙を使用してください。筆は兼毫筆を用いることを推奨します。仮名の小字（細字）用の筆は細すぎるため、この文字の大きさに対応できませんので注意してください。

〈学習上の留意点〉

「う」…のびやかに書きましょう。

「つ」…「ろ」上部に向けて最終部は力を抜かずに運筆しましょう。

「ろ」…字母は「呂」です。上下に分かれた文字で下部の口部分を大きく書きます。

「は」…左部と右部をつなげます。「ぬ」に向かう連綿も力をぬかずに書きましょう。

「ぬ」…最終部まで丁寧に運筆しましょう。